

第1回毛呂山町小・中学校のあり方検討委員会 会議録			
日 時	令和4年7月28日(木) 13:30~15:25	場 所	毛呂山町役場201会議室
出席者	委員23名(欠席1名 途中参加1名) 傍聴者5名		
毛呂山町	高沢教育長 石田教育総務課長 土屋学校教育課長 内野教育総務課副課長 三浦学校教育課副課長 新井学校教育課指導主事 岩田教育総務課管理係長 菅原教育総務課管理係主事		
発言者	内 容		
事務局	<p>皆様こんにちは、お待たせをいたしました。A委員から欠席のご連絡を、B委員から所用のため遅れるとのご連絡を事前にいただいております。毛呂山町小・中学校のあり方検討委員会設置要綱第6条第2項に基づき、過半数に達していますので、会議が成立することを報告します。</p> <p>ただいまから第1回毛呂山町小・中学校のあり方検討委員会を開催いたします。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>はじめに、本日使用する先日郵送しました資料の確認をさせていただきます。</p> <p>～事前配布資料9点について確認～</p>		
事務局	<p>それでは、資料の1枚目に本日の会議次第がございます。この次第により会議を進めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>次第の2でございます。挨拶を毛呂山町教育委員会教育長より申し上げます。</p>		
教育長	<p>皆さんこんにちは。</p> <p>本日はご多用の中、第1回毛呂山町小・中学校のあり方検討委員会にご出席いただきましてありがとうございます。委員の皆様には、日頃より毛呂山町の小中学校の教育活動をはじめ、生涯学習、スポーツ振興等教育行政の推進にご理解とご協力をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。誠にありがとうございます。</p> <p>すでにご案内かと思いますが、毛呂山町では「未来を拓く人づくり(小中一貫教育)プロジェクト基本方針」を策定し、学校・家庭・地域が互いに連携して、毛呂山の未来を担う子供達を育成しております。各学校では</p>		

小中一貫教育の推進スケジュールにのっとり、平成30年を初年度として、コミュニティ・スクールの取り組みが毛呂山中学校区、川角中学校区の小中3校でそれぞれ学区内で展開されております。小中の9か年を連続性のある教育課程で編成し、学習指導や生徒指導等の充実を図り、小学校から中学校へのスムーズな接続を行い、児童生徒一人一人に寄り添った指導に取り組んでまいっております。その取り組みの推進・充実のために学校運営協議会が設置され、校長の学校運営のプランである学校経営方針などについてご意見をいただき、学校の教職員と地域の保護者の皆様、また地域の方々とともに学校を支えていただき、地域とともにある学校として、毛呂山中学校区、川角中学校区それぞれの小中学校ならではの、創意や工夫を生かした、特色ある学校づくりをお願いし、日々の教育活動の中で実施させていただいてるところであります。小中学校の教職員や児童生徒の交流、また地域の方々の持つ技能や経験を学校教育に取り入れ、また運営委員の方からいただいた意見を参考にして、学校経営や児童生徒のより良い、また幅の広い学習に活かしてまいりました。児童生徒にも、教職員にも、また保護者の方々にも、そして地域の方々にも、この取り組みを通して、お互いの技能や知識を補完しあい、それぞれが自己存在感や有用感を高め、地域の学校として成長しあう効果が期待できるものと確信して推進しております。

本日のこの検討委員会は、先に述べた「未来を拓く人づくり（小中一貫教育）プロジェクト基本方針」を展開していく上での、最も効果的な学校の施設形態を施設一体型小中一貫校とさせていただき、その開設年度を、予定では川角中学校区が令和8年、毛呂山中学校区が令和10年。その目標にしていた計画につきまして、ここ数年来の新型コロナウイルス感染症拡大やそれに伴う学校教育に対する学習の保障、また学級編成等、今日の様々な教育的社会的課題を考慮し、今後児童生徒の望ましい施設を整備するためのご意見をいただく旨の委員会でございます。それぞれのお立場の委員さんから、児童生徒の望ましい育成に必要な、毛呂山町での施策の方向性を鑑みただご意見をいただけますよう、重ねてお願い申し上げます。

現在、新型コロナウイルス感染症が、変異株が出てまいりまして。感染の拡大がですね、大変憂慮されております。本当に現場等ではですね、予断を許さない状況ではないかと思えます。

	<p>実は町の陽性者も昨日の報告ですと2, 837人。私たちのところにもいろんな報告が来るんですけども、7月に入ってからです、一日平均25名程度の感染者が出ております。皆様方にもぜひ、引き続き感染拡大防止に努めていただくとともに、家庭生活、学校生活職場での生活が、より安全になるよう、ぜひ重ねてお願い申し上げます。本日もこのような会議室になりましたけども、感染拡大防止に努めてまいりたいと思います。ぜひご理解をいただきたいと思います。</p> <p>では、本日は限られた時間ではございますが、皆様から貴重なご意見をいただきながら、それから説明のほうさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして次第の3、委嘱状の交付をさせていただきます。大変申し訳ありませんがお時間の都合上、代表して城西大学准教授真殿仁美様に教育長より委嘱状をお受けいただきます。真殿様、恐縮ですが前の方にお進みください。</p>
教育長	<p>委嘱状、真殿仁美様。あなたを毛呂山町小・中学校のあり方検討委員会委員に委嘱します。任期、令和4年7月28日から令和5年3月31日まで。令和4年7月28日、毛呂山町教育委員会。どうぞよろしく願いいたします。(委嘱状交付)</p>
事務局	<p>ありがとうございました。元の席にお戻りください。</p> <p>なお、他の委員の皆様には事前に卓上に配布をさせていただきました。よろしく願いいたします。また、配布してあります委嘱承諾書に本日の日にち、令和4年7月28日の記入と、署名をお願いいたします。事務局のほうにいただきにあげます。(承諾書回収)</p> <p>ご協力をありがとうございました。それでは次に次第の4、皆様本日が初めての顔合わせでございますので、委員の紹介をさせていただきます。資料の中に名簿がございます。恐縮ですが、この名簿順にお名前を読み上げさせていただきますので、呼ばれた委員さんはその場でご起立いただき、自己紹介をいただければと存じます。始めに、真殿仁美様。</p> <p>～委員自己紹介～</p>
事務局	<p>以上、委員の皆様でございます。</p>

	<p>次に、改めまして教育長及び本日出席の事務局の自己紹介をさせていただきます。</p> <p>～教育長、事務局の順に自己紹介～</p>
事務局	<p>続きまして、次第の5でございます。この委員会の総括をお願いする委員長及び副委員長の選任をお願いいたします。はじめに委員長でございますが、お配りしております資料の2枚目にこの検討委員会の要綱がございます。要綱の第5条第2項に委員長は委員の互選によると規定されています。委員の皆様から、自薦・他薦問わずどなたかいらっしゃいましたらご発言をお願いいたします。</p> <p>(委員挙手)</p> <p>C委員、お願いいたします。</p>
C委員	<p>多方面にご活躍をされていて、経験も豊富でいらっしゃるDさんをお願いできたらと思うんですが、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>ただいまC委員よりD委員さんを委員長にというご推薦……失礼いたしました、申し訳ありません。他にご推薦の方、いらっしゃいますでしょうか。</p> <p>(委員挙手)</p> <p>E委員、お願いいたします。</p>
E委員	<p>推薦ではなくて、立候補というかたちで、やりたいというふうに自薦ということをお願いします。</p>
事務局	<p>はい、そうですね。自薦というところも先ほど要綱のほうに記入されておるというふうに私説明しました。どなたかご自身で、委員長のほうをなさりたいという方はいらっしゃいますでしょうか。</p>
E委員	<p>いいですか、それで、すいません……。</p>
事務局	<p>E委員さん、そうですね。今ですね、自薦ということでE委員さんが手を挙げられ、またD委員さんが他の方からの他薦ということで、お二人の</p>

	<p>方が委員長はどうかというふうに挙がっております。今お二人の方が挙がっておるのですけども、このお二人の方のどちらかに委員長さんをお願いしたいということでよろしいでしょうか。それともまだその他に、どなたかご自身で委員長のほうをなさりたい、またはどなたかをご推薦したいという方はいらっしゃいますでしょうか。</p> <p>(委員挙手) F 委員、お願いいたします。</p>
F 委員	<p>意見なんですけど、D さん、ご意思は確認なさらないでよろしいのでしょうか。</p>
事務局	<p>はい。まずは他にいらっしゃるかどうかをお訊ねしてから、ご確認したいと思いますけれどもそういう流れでよろしいですか F 委員さん。</p>
F 委員	<p>D さんがよろしければそれで。</p>
事務局	<p>申し訳ありません。じゃあ D さん、他の方の立候補などご確認してから先に進めさせていただくということでよろしいでしょうか。</p>
D 委員	<p>はい。</p>
事務局	<p>それでは……。 (B 委員入室) ただいま B 委員さんのほうがですね、ちょっと遅れていらっしゃいましたので。</p>
B 委員	<p>よろしく申し上げます。</p>
事務局	<p>今ですね、委員長さんのほうを決めておるのですけれども、他の方からのご推薦ということで D 委員さん、ご自身がお立候補ということで E 委員さんのほうが委員長さんの候補となっております。そのほかにご自身のほうで委員長さんにご立候補なさる方、またはどなたかをご推薦するという方がいらっしゃいますれば挙手をしていただきまして。</p> <p>(G 委員挙手)</p>

G 委員	<p>すいません意見なんですけども。ちょっとすいません、今日初めてお会いした方々で推薦がちょっと難しいんですけど、できれば僕としては現役で小中学生で子育てしている世代の方でどなたか推薦したいなと思ってたんですけど、ちょっと……。</p>
事務局	<p>はい。</p>
G 委員	<p>あ、すいません意見だけになっちゃうんですけど。</p>
事務局	<p>はい。子育てをされている方からの委員長さんがよろしいのではないかなというようにご意見も今挙がりました。子育てをされている方々ですと、PTA 関係の方々であったり、保護者、いわゆるこの選出区分のほうがですね、保護者となっている方々が主に子育てをなさっておる方々ではないかというふうには理解しております。その他に公募の方で子育て現役の方もいらっしゃるというふうには理解しております。そういった中で、G 委員さんもどなたかご推薦をなさいますか。</p>
G 委員	<p>すみませんちょっと私じゃあ、ときわぎ幼稚園のほうにちょっとうちも通わせていただけてますので F さん推薦をさせていただいてもいいですか。すみません突然で申し訳ないんですけども。</p>
F 委員	<p>ああ、いや全然。</p>
事務局	<p>では、ただいまご推薦ということで D 委員さん、F 委員さん。ご立候補ということで E 委員さんのほうが委員長さんということで挙がっております。この方々のなかで、お決めいただくということで皆さんよろしいでしょうか。今ご推薦いただいている方々であったりご立候補してくださっている方々よろしいでしょうか。</p> <p>決め方といたしまして、多数決であったりくじであったり色々あると思うのですけれども、公平に……。</p>
D 委員	<p>ちょっと、すみませんその前に。</p>
事務局	<p>はい。</p>

D 委員	<p>推薦をいただきましたけれども、このような場でね、やっぱり自らがやるっていう意思をお持ちの方が一番私は相応しいのかなと。色々推薦というのはいろんな形があって推薦をいただいていると思うんですけども、やっぱりなかなか自分からやるよっていう意思のお持ちの方はなかなかいらっしやらないので。貴重なお方かなと思いますので、できれば私はねそちらにどうぞっていう意思を持っております。</p>
事務局	<p>(委員挙手) F 委員お願いします。</p>
F 委員	<p>D さんとまったく同感で。で、G さんからのご推薦をいただいたので大変我儘なお願いですが、もし、副委員長くらいだったらやってもいいかなと思っております。すみませんよろしくお願いします。</p>
事務局	<p>では今貴重な意見をいただきましたので、D 委員、F 委員の意見のとおり、委員長さんのほうはご立候補していただきました E 委員のほうにお願いし、副委員長さんは推薦をいただきました、失礼いたしました、申し訳ありません。要綱のほうにですね、副委員長さんは委員長が推薦をするというふうになっております。申し訳ありません。委員長さんは E 委員さんをお願いしたいと思います。</p> <p>それでは E 委員さん、委員長席のほうにお願いいたします。</p> <p>続きまして、副委員長の選任に入ります。同じく要綱の第 5 条第 2 項に副委員長は委員長の指名する者となっております。E 委員長から副委員長のご指名をお願いいたします。</p>
委員長	<p>はい、すみません。それでは先ほど副委員長ならいいというふうに仰ってくださった F 様お願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。F 委員さん、ぜひ副委員長の席のほうにお願いいたします。</p> <p>それでは改めまして、委員長、副委員長にご挨拶をいただきたいと思います。始めに D 委員長お願いいたします。</p>
委員長	<p>はい、よろしく申し上げます。私はいま委員長に立候補したのは、実は小中一貫校があのような形で決まってしまったことに対して現場教員としてすごい疑問を持っているからです。それで、なんであんなふうになった</p>

	<p>のかなということ、学校教育環境等検討委員会の議事録を見たところ、その会議が32人出席していたんですけれども、発言者が6、7人。10人いない段階でどんどん議題が進んでいったわけです。5回ともそうでした。で、だからそこらへんのやっぱりみんなが知恵を集めて、そして話し合った結果ではないのかなというふうに感じました。</p> <p>で、この会議は何かを決める会議ではなくて、これからの行き方を検討するとても重要な分かれ道の会議です。そのときに、出席しているだけで、話を聞いて終わってしまったということだとせっかくここに出席された方たちがすごくもったいないです。私たち公募5人はなんでこの会議に出たいかみたいなことを書いて、提出して、選ばれた5人です。だからもっと他に何人も来たいと言いながら希望したけれども、落ちてしまった人たちがいるわけです。だからやはりその人たちのことも考えると、みんながみんな全員、一回の会議ではなくて全部を通して発言し、学び、そしてより良い方向にもって行ってほしいなというふうに考えています。だからその意味では私は、できるだけ指すことも含めて全員に発言してもらような会議にしていきたいと考えて、それは私じゃないとできないかなって、指していくってというのは、端から指していくっていったって無理ですので、私のほうからどんどん指す形で、必ず何回も何回も発言していただいて、私たちと、教育委員会の事務局だけではなくて、私たち同士の意見交換みたいな形でどんどん深めていけたらなというふうに思って議長を、委員長を、立候補をさせていただきました。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。続きまして、F委員お願いいたします。</p>
副委員長	<p>みなさんこんにちは、改めましてFと申します。どうぞよろしくお願い致します。</p> <p>まさかこういう流れになるとはまったく思っておりませんでした。こういう会を仕切るということは、私まったく経験ございません。私自身、毛呂山小学校毛呂山中学校出身で、毛呂山生まれ毛呂山育ちの、筋金入りのもろっ子です。で今3児の父でして、長男は中学生、次男が小学校4年生、ごめんなさい小学校3年生でまさに毛呂小に通ってます。で、3男がいまときわぎの年長ということで、今まさに子育て真っ最中でございます。現役の子育て世代の代表として、僕たちはこういうふうにしてほしいとか、こういう気持ちだということは皆さんにお伝えできるかなと思えますので、そういったことを上手く検討委員会のほうで拾っていただいて、僕たちの子供たちのために、よりよい政策を作っていただけたらなと思っ</p>

	<p>ています。大変若輩者ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。それでは次第の6の議事に入る前に、少しお時間のほうを遅れてこちらの会に参加していただきました、B委員をご紹介申し上げます。</p>
B委員	<p>ご紹介にあずかりました、Bと申します。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは次第の6、議事に入ります。議事の進行につきましては設置要綱第5条第3項により、委員長が議長となっていただきます。なお、以後の事務局の説明につきましては、このまま着座にての説明をお許しいただきますようお願いいたします。よろしくお願いいたします。</p>
委員長	<p>よろしくお願いいたします。資料がいっぱいあるんですけども、どんな形でまず説明されるのか、ちょっと説明の仕方についてお願いいたします。</p>
事務局	<p>はい。議事の内容ですけれども、今回内容が毛呂山町小・中学校のあり方検討委員会についてございまして、今回はですねこの、今回第1回はこのあり方検討委員会の、まず位置づけ、取り決め事をまず決めたいと考え、ご説明したいと考えております。資料に沿いまして、そちらのほうを説明いたしまして、そこで一度切って、ご質問等いただけたらと考えております。そちらのほうが終わりましたら、続いて次は右上にある資料1のほうから、未来を拓く人づくり（小中一貫教育）プロジェクト基本方針、こちらのほうを説明をいたしまして。今まで毛呂山町の教育委員会がどのような教育を目指してきたか、そしてどのように住民にお知らせしたか。そしてここで再検討になった理由、こちらのほうをお知らせいたしまして、最後に今後の審議スケジュール、こちらのほうをお伝えしたいと考えております。以上です。</p>
委員長	<p>資料3、4、5についても一緒に説明していただけるわけですか。</p>
事務局	<p>はい。</p>

委員長	はい、わかりました。それではそのような形になっておりますのでお願いいたします。
事務局	はい。それでは資料の説明のほうに入らせていただきます。まずお手元に、次第の次にありました毛呂山町小・中学校のあり方検討委員会設置要綱。こちらを改めて説明させていただきます。
	～設置要綱、委員名簿、傍聴要領について説明～
事務局	ここまでが、こちらあり方検討委員会の規定等の説明になります。ここで一度説明を切らせていただいて、以上の点からご質問いただければと思います。
委員長	はい、ありがとうございました。では今の説明について、何かご質問等ありましたらお願いいたします。
	(副委員長挙手)
委員長	はい。
副委員長	すいませんこれ議事録ってどうなるんですかね。議事録は作っていただけるんですか。
事務局	はい。議事録は、すみません申し遅れました。いまそちらのほうのマイクからICレコーダーのほうに録っております、テープで会議録を起こしております。以上です。
副委員長	その議事録はどのように公開されるんですか。
事務局	こちらできましたらホームページで公開する予定でございます。
副委員長	大体、すみません連続でごめんなさい。大体どれくらいの期間議事録作成に時間がかかって、どのくらいの期間掲載されるんでしょうか。
事務局	まず掲載ですけれども、掲載はずっと期限を設けることなく、設けることなく必要な期間、掲載する予定です。作成にあたりましては、そうです

	<p>ねすいませんちょっと、この委員会のボリュームにもよりますし、すいませんちょっと中々日常業務の中でのことですので、はっきりとは言えないんですけども、できるだけ速やかに、調製したいと考えております。</p>
副委員長	<p>すみません最後の質問になるんですけど、非公表にできると言っていたところがまさにこの議事録のここからここまでを非公表にしてくれみたいなそういう設定の仕方になるということでしょうか。それとも議事録まるっと非公表ということなんでしょうか。</p>
事務局	<p>すみません、非公表というのがこの非公開のことです。この委員会です、この会議自体を原則は公開いたしますが、必要に応じては非公開にすることができるというふうなものです。ですので、もしも非公開が必要だというような判断になれば傍聴人の方は出て行っていただいて、で、中だけで、非公開で会議するということになります。</p>
副委員長	<p>わかりました。ただし議事録は出すということですね。</p>
事務局	<p>その場合ですね、えー非公開の部分の、議事録についてはもちろん非公開案件ですので、公表すべきものではないというふうに考えております。</p>
副委員長	<p>わかりました。切り分けがよくわかりました、ありがとうございます。</p>
委員長	<p>他にございましたらお願いします。よろしいですか、それでは次に進みます。</p>
事務局	<p>はい。では続きまして資料1、未来を拓く人づくり（小中一貫教育）プロジェクト基本方針、こちらの資料からえーご説明いたしたいと思えます。</p> <p>～資料1～5について説明～</p>
委員長	<p>これから質問等に入るわけなんですけれども、今日のだいたいの時間的な、先ほど遅れているっていうんで仰っていたんですけども、ちょっとそこからへんを言っていただけるとありがたいんですけども。</p>

事務局	すみません。学校のほうの見学ということで、一応学校のほうには3時頃ということでお話はしてあります。
委員長	ここでの話し合いを3時頃に終わりにするという事……あ、違うんですね。もっと前に行かなくちゃ、3時から。
事務局	そうですね。すみません移動がありますので、もう少しちょっと、早めるとは思うんですけども。あくまで学校のほうには3時頃というお話をしております、会議の時間によっては、前後するという事でお話はしてあります。
委員長	わかりました。では少し時間をとって、多分資料が配られていると思いますので、ご自宅のほうで見たとは思いますが、忙しくて見られなかった方もいらっしゃるかもしれませんので、再度確認ということで5分程度、すみません時間取って。もう一度自分でわからないところとか、そうですね質問が今日は多いと思いますので、確認をお願いいたします。
H 委員	もう質問があるんですけど、それはやらないんですか。
委員長	よろしいですか。じゃあ質問をしながら自分でも考えていただくということで。じゃあ、はい質問のある方、すみません挙手をお願いします。 (委員挙手) お名前を言ってからすみません、申し訳ないんですがお願いします。
H 委員	お先に失礼します、Hと申します。3つ質問があります。この検討委員会を設けるにあたって、事前に計画していたものとは状況が変わったのでこの委員会が設立されたという情報がありましたが、そもそもこの令和8年令和10年に、それぞれ川角地区と毛呂山、毛呂地区の統合という話があった、計画があるじゃないですか。で、この今お聞きしたスケジュールで、その令和5年度までに内容をまとめるとあるんですけど、そのまとめた段階での令和8年令和10年というのは変わらず進めてもらえるのか、進むのか。それで、それが令和8年10年というのは後ろ倒しになるのかならないのか、というのが1つ。 2つめが、前回もその途中であり方が変わったからこの再検討委員会という形になっているという情報がありましたけど、その35人学級とか。

	<p>その状況が変わったからというのがありましたけど、また今度、少子化と かってのは急激に多分、各地で進んでいって状況が変わると思うんですけ ど、これを検討している最中にまた状況が変わったから、またやり直すみ たいなことがありうるのかどうか。要するに私はすぐにでもやればいいん じゃないかと思っているからこの質問をしています。</p> <p>最後、川中川小は統合する、でも毛呂地区はやめとこうみたいな。例え ば半分、いまどちらも統合するということで話が進んでいますが、例えば 片側だけやってみようとか、進められるほうからやってみよう、そのそれ が令和8年10年っていう話かもしれないですけど。そのこの2つとも が統合するという話を進めるべきなのか、それとも片方だけでもやるとい う話にするべきなのか、何かその辺りの決め方とかスケジュール感ってい うのは、この委員会が設けられたことで後ろ倒しになっているのになっ ていないのかっていうのをちょっと知りたくて。要するに1年間これを検討 していいんですか、という。学校現場はもっと大変なんじゃないんです かっていうのを知りたい。だからそれで、もし先に結論が出せるんだっ たらもっと早く結論したほうがいいし。うん、その8年10年に進むのに支 障があるような委員会になるんだったらおかしい、委員会を設置している 意味ってあるのかしらっていうのをちょっと思うところですね。質 問の意図はわかりますか。はい、その3つです。</p>
委員長	<p>はい、とりあえずお願いします。</p>
事務局	<p>ご質問ありがとうございます。H委員さんの思いは、今まで町が示して いたことを少しでも早く進めるということが検討としてあるのかどうかと いうところも含んだご質問であるかと思います。</p> <p>まず1番と2番の質問なのですけれども、ここでこの検討委員会を開か せていただいたということは、その前に検討していたときは状況が大き く変わってしまったというところが大きな原因というふうにご理解してい ただきたいと思います。具体的にはこの今までかつて経験したことのな いような大きなパンデミックの関係であるとか、35人、そのことによる3 5人学級のクラス編成の関係であるとか。そういうこと、今まで話し合っ ていたものとは状況が大きく変わったというところをまずご理解してい ただきたいと思います。そこをご理解していただきまして、そのまま進め てしまっているかどうかということが、この再検討の大きな目途となっ ております。そして先ほど資料説明にもありました通り、基本的に毛呂山町 の教育をどのようにいいものとして子どもたちに教育をしていかなければ</p>

	<p>いけないのかというところが、一番の教育委員会としても考えなければいけないところ。そういった町の教育に対するご意見、そのようなものをお預かりしながら検討委員会で色々な意見をいただきながら、方向性を見ていただければならないというふうに考えておりますので、ご理解いただきたいというふうに存じます。</p>
委員長	<p>よろしいですか。</p>
H 委員	<p>令和8年10年というのは基本的に変えないということですか。</p>
事務局	<p>今の段階で変える変えないというところの明言ということではなくて、この委員会で色々なご意見をいただきながら考えていかなければならないことであるというふうにご理解いただきたいと思います。</p>
H 委員	<p>わりとゼロベース……。</p>
事務局	<p>すみません。その何度も同じ言葉を連呼することになってしまうんですけども、なかなかこう、具体的に難しい、難しいってのはすぐに始められる部分と始められない部分というのはどうしてもあると思います。すぐに工事に取り掛かるとか、そういうところでないところでもしすぐに始めたほうが良いというような流れになるのであれば、できることをさらにスピードアップということが、まったく不可能ということはないと思いますので、色々なご意見のほう、いただきたいというふうにお問い合わせいたします。</p>
H 委員	<p>わかりました。</p>
委員長	<p>この検討会では期限だけではなくて、施設形態等ということでもいろいろなものに対して、検討をするというふうなことで広報等に載っていたと思うんですけども。だからそういう意味ではゼロベースみたいな形で、何でも言っていないみたいなそういうふうな検討会になってくるのかなというふうに考えていたんですけども。そういうふうな小中一貫校は絶対のものとしてここにあるわけですね。それとも。施設形態っていうふうなところまで、仰っていたのでそこちょっと確認します。</p> <p>(事務局挙手)</p>

	<p>はいお願いします。</p>
事務局	<p>まず毛呂山町でどういう教育を進めていきたいかというところを、こう皆さんのご意見をいただいていく中で、自ずから施設の形というのも導かれるというふうに考えております。</p>
委員長	<p>わかりました。よろしいですか H さん。</p>
H 委員	<p>ああ、大丈夫ですはい。</p>
委員長	<p>こんな形になります。 はい、じゃあ他にありましたら。</p>
	<p>(委員挙手)</p>
	<p>はい、ではお願いします。</p>
I 委員	<p>公募委員の I です、よろしくお願いいたします。 まず資料の 1 番のところで、ちょっと読み上げはしなかったんですが、学校の問題で中 1 ギャップ、中 1 のギャップというものが挙がっておりますよね。一般的にこれは中学校の 1 年生になると不登校の数がどーんと増えると。で、それからいじめの件数も報告されているのがどーんと上がると。で、これが実感されて中 1 ギャップだから、その小中学校の接続を改善すれば、改善しましたという事例は私は見たことがないんですね。 で、実はですね、こちらのほうに、もしよかったら配っていただきたいんですが、文科省の国立教育政策研究所が出したリーフレットで、あどっかの説明会で僕資料提供したことがあったかと思うんですが。不登校の数が、ずーっと漸増式に増えていって統計上、中学校に入ると増えるように見えるんですが、そこだけ対策してもだめですよ。じゃあいったいどうすんだという、やっぱり地道に小中の接続をしなさいという、こういうことなんですよね。で、僕はそれ見てて申し訳ないんですが、意見述べちゃって申し訳ないんですが、小中の接続を改善すればこの中 1 ギャップが改善するというふうに毛呂山町の教育委員会は考えてこれを提案していると、そういうふうに思ってしまうんですよ。でも、僕の入手したところだとそういう事例はないんですね。で、大規模校になればなるほど子供の目が、ケアができなくなります。で、その時に、じゃあ小中一貫教育で大規模校で切磋琢磨するんだという方針でいった時に、一番被害を受けるの</p>

	<p>は学校に行きづらい子供なんじゃないだろうかな、不登校教育の子供なんじゃないだろうかなと、そういう懸念がいっぱいありますね。</p> <p>それが一点とすみませんがあともう一つだけです、校舎の耐用年数60年と仰いましたけれども、小学校はもう潰して建て替えるんだ、それよりは費用がかかるから中学校に入れるというふうに言いましたけれども、中学校に統合するみたいなこと言いましたけれども、でもそれってね、申し訳ないんですが自己矛盾ですよ。毛呂中と川中は同じ歳をとっていくんですよ。</p>
委員長	すいません、あの……。
I委員	というところで……。
委員長	今のは質問で。
I委員	はい、ですね。質問です。で、そこが……。
委員長	じゃあちょっと質問のほうにいつてもらって。
I委員	で、そこが統合した時にすぐ60年経ってしまう。そこは矛盾だ。中1ギャップと、その統合した校舎もすぐ60年経ってしまいますよと。だからちょっと根拠が崩れているんじゃないかなと。その2点でちょっと質問させてください。以上です。
委員長	じゃあ中1ギャップについて答えてほしいんですけども。すいません資料については次回に配布、了承していただいて配布していただくことよろしいですか。Iさんいいですかそれで。
I委員	はい。
委員長	はい。では中1ギャップについて。
事務局	中1ギャップについてですが……。
委員長	もう少し大きな声をお願いします。

事務局	<p>はい、すみません。中1ギャップについてですが、こちらのほうは不登校だけではなく、中学校に上がった時に学習の仕方が小学校の時の授業のやり方であったり、こういったものが中学校になって変わっていく、それによる学習のつまづき。こういったものも含めての中1ギャップというようなことになっております。で、不登校の解消だけではないので、こういったその学習のつまづきであったりですね、こういったもので一貫教育をやっていくことによって、中学校の文化を知ることによってですね、接続のほうが滑らかになると。そういったことでこの中1ギャップの解消が期待できるというような形で基本方針には載せさせていただきました。でこちらまたですね、小中一貫教育の制度化に伴う導入意向調査についてということで、文科省の方で調査した結果がございます。こちらのですね、生徒指導等のところで、いわゆる中1ギャップが緩和されたといったところがですねこちら93パーセントという回答を得ております。</p>
委員長	<p>すみません、それは資料として私たちに配られてないですね。</p>
事務局	<p>配られてないものです。こちらの持っているものでございます。 またですね、中学校への進学に不安を覚える児童が減少したと。これも96パーセントといったものもございますので、こういった資料もですね、今後提出させていただきながら、話をさせていただけたらと思っておりますのでよろしく願いいたします。</p>
委員長	<p>ちょっとすみません。今のような中身の具体的な資料というのは今日はもう時間がありませんので、2回目以降の話し合いの時に資料も揃える形でやりたいと思います。なのでもし必要な資料等があったら教育委員会の方に、事務局の方にこういうふうな資料を持ってきていいですかとか、こういうふうな資料をお願いしますとかそのような形で要求をしていただいて、それに基づいて皆さんがわかるような形でお話していただけたらありがたいと思います。よろしく願いいたします。</p>
副委員長	<p>施設見学ってどこ行くんですけどっけ。</p>
委員長	<p>毛呂小と毛呂中です。</p>
副委員長	<p>あっ毛呂小と毛呂中ですか。行きたい方はどれぐらいですかね。</p>

委員長	<p>で、すみません。さっきのすぐ60年が経ってしまうというのもまた2回目以降にちょっと譲りたいと思いますので、よろしいでしょうか。すみません、そこで、はいどうぞ、すみません。Jさん、お願いします。</p>
J委員	<p>Jでございます。先ほどですね、I委員がですね、仰っていたの私の手元にもございます。これですね、国立教育政策研究所が初版でですね平成26年、そして部分改訂で27年3月に出した物です。同じ物でしょうかこれ。</p>
I委員	<p>はいまったく同じです。</p>
J委員	<p>はい。ご指摘の通りですね、中1ギャップというこの用語を非常にこう問題にあるということをもとめてあるものですねこれ。私もですねここに書かれているものは読みました。で、ここで私が非常に重要だなと感じたものはこれ、この用語に対しては明確な定義がないと書いてあるんですね。で、この研究を基に数々の先行研究を行って、本にもなっております。私も何本か論文を読んでまいりました。この用語の定義がないものがこのまま独り歩きしたということで、この教育政策研究所が出して以降ですね、中1ギャップに関するトーンが非常にこう落ちてきたという、そういうものもありますよね。そうすると明確な定義がないんだけど、やっぱり中1ギャップというものをここで私たちが議論するのか検討するのかと。ちょっとこの辺りは重要になるのかなと私は考えているんですね。もう少し違う課題について私たちは議論するのか、その辺りも踏まえてぜひご検討いただければなど。</p> <p>そしてですね、先ほどご紹介いただきましたこれ資料2のほうですね。資料2の、2のところ町内の学校施設をということで。7月8日と予定を組んでいただいているんですが。私これまでですね、中国でも教育関係、教育施設たくさん調査に行ってまいりました。その際にですね、必ずその中には児童生徒がいるんですよ。校舎を見に行く、外側を見に行くんじゃないんですね、やっぱり児童生徒がいてこそなので。もしできましたら私は児童生徒がいる期間に見せていただければなどと考えております。これは私個人の考えですので、またその面も併せてですね、ご検討いただければと思います。</p>
委員長	<p>ちょっと待ってください、すみません。</p>

副委員長	<p>みなさんたくさんご意見があって、この後毛呂山小学校中学校、別に行かなくてもいいんじゃないかな的な雰囲気非常に感じておりますので、もし可能であれば施設見学は来月にも予定がありますので、そちらのほうでご希望される方は行っていただいて今日は例えば3時半ぐらいまで、議論をここでやらせていただくという流れに少し調整させてもらうことは可能ですか。よろしいですか。皆さんよろしいですか委員の皆さんも含めて。</p> <p>じゃあよろしいですか、このまま一応議論を続けるということで、半まで。施設見学は希望される方は来月行かれるということで今日は調整させていただきたいと思います。事務局の方々もそれでよろしいですか。よろしいですね。では委員長そういうことで流れを、はい。少し変えさせていただきますればと思います。</p> <p>(事務局と委員長、副委員長で話し合う)</p>
委員長	<p>すみません。部屋はまだ、3時ということではなくて大丈夫なんですけども、ご自身の都合で3時頃に退出される方がいらっしゃるということで、あと他の方もそれぞれご事情抱えていらっしゃると思いますので、お時間になったら退出していただくほうがいいかなと思いますので。ただ議事だけは少しここでもう少し続けさせていただくということでよろしいでしょうか。すみません、最初から色々申し訳ありません。</p> <p>(委員挙手)</p> <p>はい、どうぞ。</p>
K 委員	<p>今退出をさせていただきます……。</p>
委員長	<p>お名前をすみません。</p>
K 委員	<p>はい、Kです。すみません、地域のことでまた機会がありましたらお話をしたいと思います。今日は私3時から学校のほうに行くってということでその間にとっておりましたので、このまま議事のほう進められるとちょっと私の方、申し訳ないんですが。</p>
委員長	<p>はい。</p>

K 委員	よろしいでしょうか、すみません。
L 委員	じゃあごめんなさい、私もこの後所用がありまして。Lと申しますが、ちょっと申し訳ないんですけどこの後用事がありまして、退出させていただきます。
委員長	ありがとうございました。では次回の発言をお待ちしております。
M 委員	すみません、Mですけども。この後職員との打ち合わせがございますので、申し訳ありませんが。 (委員数名退出) (事務局と委員長、副委員長打ち合わせ)
委員長	すみません、ちょっとどうしたらいいか……。 (委員より G さん聞きたいですとの声)
委員長	G さん。はい、じゃあすみませんまた次の時にもしかしたら……。 (いやいや議事録取ってるんだからいいじゃないですかとの声) もう一度お話していただくようになるかもしれませんが、はい。とりあえず聞くことに。
G 委員	すみません、次回までにやってきてほしいことがあるんですけども。
委員長	はい。
G 委員	そこだけ今ちょっと言ってみてもいいですか。
委員長	はいどうぞ。
G 委員	2つありまして。

委員長	<p>ごめんなさい大きな声でお願いします。マイク無しなので。</p> <p>(委員にマイクが渡る)</p>
G 委員	<p>ちょっとデータが不足していて、もう少しちょっとこういうの見たいあ あいうの見たいというのが皆さんあると思うので、教育委員会のほうに直 接行ってそういうデータを見せてもらうことってできますか。例えばなん ですけど、コミュニティ・スクール3年間やってきましたけど、そのア ウトプットってなんか誰かまとめてる人がいるはずですよ。お金取るの にこういう結果が出たから次これやるんだみたいなのが、あると思うの で。そういうなんかどういうアウトプットが出たの、とか。その時代の流 れというか、状況が変わったっていうので、私一番大きく変わったのは GIGA スクール構想入って、各学校に LAN の設備が入って。そういうと ころでなんかどういう効果が出てるとか、どういう考えでやってますよ とかちょっと知りたいなど。そういうもの入れたグランドデザインがない と、ちょっとこの資料1のところはデジタルの話が入ってないので。そう いうの作られてる方も多分いらっしゃると思いますので、そういうよう な話を聞きに行ってもいいですかという。委員会せつかく入れてもらった ので、そういうことはできますか。</p>
事務局	<p>あ、すみません。資料の件はご相談いただければと思います。ただその 時に、そのまま生のデータでお渡しできるかというのがまた別の話になり ますので、多少加工が必要であったり、恐らくそういうふうになるかと思 いますので、お時間等もいただくことになってしまいます。ですから役場 に来た時に直接すぐにお渡しするっていうことはできないと思いますし、 あとできれば皆さんにですね、それぞれ委員さんの皆さんにお渡しでき ばと思いますので、まずはどういうものが見たいのか欲しいのかという ことをいただければできるだけ速やかに、次回の検討委員会の時にお渡し できればというふうに考えております。</p>
G 委員	<p>はい、わかりました。で、もう1件、学校の関係者の方いなくなっちゃ ったんで伝えておいてほしいんですけど。このいただいている資料でその学 校側の負荷に関して何も情報がなくて、よく書かれてる一緒になるから教 員の負荷は減るんだ、って書いてるんですけどまったくそんなことない と思って。増えることはあっても減ることはないだろうっていうのがどう してもちょっと、一般的なサラリーマンの考えとして。そりゃないだろう</p>

<p>委員長</p>	<p>っていうのがあるので、そのへんの実際になんか匿名のアンケートとか取って小中一貫について教職の方はどう捉えてんだとか。じゃあ今の残業時間ってどのぐらいやっていて、それが小中一貫になるとどのぐらいになる見込みだとか。そういうデータがちょっとないと、検討してくださいって言われても中々難しいかなって思うんで。そういうところを次回までに出せるものがあれば見たいな、見たいなっていうかそれがないとやっぱ、本当にじゃあ一緒にしちゃって書かれているようなことが実現できるんだっけっていう判断が到底難しいと思うので。そういうデータも、既にあれば先ほど言ったように提示してもらっただけでもいいかもしれないです。</p> <p>他に誰か、他に何か。</p> <p>(委員挙手)</p> <p>はい、どうぞ。どんどん出してください。</p>
<p>N 委員</p>	<p>N でございます。公募委員で私だけ言ってないので1つ質問をさせていただきます。</p> <p>資料4ですね、2ページ目のこの小中クラス数の予測というところで。ここでですね令和4年度泉野小学校ですね、これが4年生だけが1クラスになっています。令和5年度は逆に光山小学校、これが他の学年は1クラスですが、複数学年、複数クラスにここだけ2クラスとなっております。このようなところでですね、その学年だけが複数になる、その学年だけが単数になる。このメリットとかデメリット、基本的に私は単数学級はあまりよくないなと思っている派なんですけれども、クラス編成はあったほうがいいなと思っているんですけれども。先ほど何か、少ないほうが子どもを見られるというそういう意見もなんか委員の方で聞いたかなと思うので、複数がいい単数がいいということではなくて、受け入れの体制とかがやっぱり違ってきってしまうのかな。あとPTAの方などもあの学年は複数だからいいね、あの学年は単数だからいいねとか。そういうような意見も何かあったりするのかなっていう感じもしますので、そういうようなことの大体こんなようになっていう話でもいいですから、PTAの方も出てきていらっしゃるんで、そういうお話もお聞きできたらなと考えています。以上、今日のところはそういう流れです。</p>
<p>委員長</p>	<p>要望として受け取っておいていただいて、次の、次回以降にそこらへんを出していただくということでもよろしいですか。</p>

N 委員	そうですそうです。
委員長	はい。他に何かありましたら。
O 委員	じゃあ、すみません。
委員長	はいどうぞ、O さん。
O 委員	すみません。資料4の3ページの小中学校配当教員数の今後の見込みというやつなんですけど、これ例えばその、小中一貫にした場合配当する教員数は増えるんですか、減るんですかね。そこが1つ知りたい。私もPTA会長ですし、保護者でもありますので。何よりその今回校舎が1つになろうが分かれようが、学力のレベルが下がるのだけは困るんですよ。上がることはあっても下がることはない。むしろ合併したことによって上がるんだったら合併すればいいし、いや合併したことで下がるんだったらそれは話にならないと思うんですよ。そこはちょっと踏まえていただいて、この推移、ようは先生が増えれば学力が上がる、それは何とも言えないかもしれないんですけど、先生の負担は当然減るのでね。そこに関してはちょっとした資料があれば一番助かると思っています。
委員長	あ、すみません。答えるということではなくて、次の時に全部、いいですか。次の時にそこを全部わかるような資料を出してもらおうということによろしいですか、はい。 どんどんそれについてだから、そういうふうな疑問とかそういうのがあった時にここで言っただけでいいから、事務局のほうに受けていただいて次の時にそれを出してもらおう。 (委員挙手) はいどうぞ、I さん。
I 委員	資料5、概要と今までの改修工事についてなんですけど、ちょっとここで6ページのほうで毛呂中と川角中の改修で、合計ここまで10億円かかっているということがございますよね。でも小学校はほとんど2億3億、2億なんです。それ校舎の屋根が壊れてるっていうんですけど、そういうもう耐用年数が来てるっていうお話もなんか他の会で聞いたことがあるんで

	<p>すが。実は小学校の屋根を直した学校は1校だけ、川角小学校で平成21年度。でそれも1300万の金しかかかってないんですよ。だから、公団のアパートは52年で耐用年数が切れるっていうふうに出てるんですけども、そういう設計にしてるんですけども。いやいや、校舎はそんなにやわに作ってないはずなので。だからさっきちょっと言いましたけれど、川角中と毛呂中は、改修したから恐らくみなさん100年保つと思ってるんじゃないですかね。だから、上手く直せば60年っていう根拠が僕はね、この改修の歴史から見るとないのかなっていう。その改修の根拠ですよ。スクラップアンドビルドが俎上に残ってますけども。その根拠が明確ではないな、ぜひ明確な根拠を出していただきたい。金額的なものも含めて、よろしくをお願いします。以上です。</p>
委員長	<p>明確な根拠ということですね。</p>
I 委員	<p>見積とかね。</p>
委員長	<p>あと、ありますか。</p> <p>(委員挙手)</p> <p>はいどうぞ。</p>
B 委員	<p>Bと申します。</p> <p>資料4の教職員の先生方の数の見込みっていうところですけど、先生の数だけじゃなくて、先生方の質ですね。こういうすごい先生がいますとか、こういう活動で実績を上げた先生がいますとかっていうそういう資料をいただくと、それもまた参考になるかなと思いますので、それちょっとお願いしたいと思います。</p>
委員長	<p>質というか先生方のもう少し詳しい得意分野とか、そこらへんの。</p>
B 委員	<p>そうですね。留学とかを経験やっていると、そういうところですね。そういう点でそういった資料があると参考になるかなと思いますので。</p>
委員長	<p>そういうふうな個人的なところですけど、出せるところもありますか。</p>
事務局	<p>公表されているものがありますので、それは出せます。</p>

委員長	<p>わかりました。じゃあお願いします。</p> <p>(委員挙手)</p> <p>じゃあ続きまして、はい。</p>
P 委員	<p>すみません P です。私も今 4 歳の息子がいてこれから小学校に上がる段階で、で、皆さんの意見をいろいろ聞いていてこの資料を見させていただいて、結構抽象的なビジョンだったりというところに対して皆さんからいろいろご要望だったりいろんなこういうところ具体的な根拠だったりというご要望がある中で。私も一人の親として、もし可能であれば現在のその小中学生の学力っていうのは実際どの程度なのかっていうのがちょっと私の中で全然わからないので、現在実際毛呂山町の小中学生の学力はどの程度で、これは実際じゃあ施設一体小中一貫校にした場合に実際どのくらいの学力向上が見込めるかとか、そういうなんかビジョンがあれば資料と共に見たいなという要望です。</p>
委員長	<p>はい、ありがとうございます。学力の、現在の学力。そしてこれからの向上の見込みということですね。</p> <p>後はよろしいですか。なかったら……。</p> <p>(副委員長挙手)</p> <p>あ、どうぞ、はい。</p>
副委員長	<p>ときわぎの父母の会の代表としての質問になります。実は今日この場に集まるまでに、ときわぎの父母の会は実は 2 回集まっています。で、役員が一応全員それぞれ質問を出し合っていて。一番多かった質問というか、一番多かった背景なんですけども。まだ未就学児ということもあってそもそもその学校がなぜ統廃合するのか。なぜその話が出たのかわからないという、まさに 1 丁目 1 番地の話が一番多かったです。で、多分この話が出て当時まだ子供がもしかするとその 1 歳とか 2 歳とか、すごくちっちゃくてまだ小中学校のところはまだあまりこう、気が向いてなかったような多分親御さんも多分多かったんじゃないかなと思います。ですので、今回のこの件があって初めてこの話をこう聞いたとかですね、言うママさんが結構正直多かったっていうことに僕自身も驚きました。ですのでまず簡単でいいので、何かそもそもなんでこの、これを学校の統廃合しなきゃいけない</p>

<p>委員長</p>	<p>のかという1丁目1番地のところ。ここを簡単なわかりやすいパンフレットみたいなのかなんか、資料あればいただければ幼稚園のほうで配布して、みんなで勉強していきたいなというふうに思っています。その上でみなさん、保護者の皆さんには質問していきましよう。まずは現状理解するところから始めていきましようということでは話をしているところですので、パンフレットがあったらぜひください。よろしくお願ひします。</p> <p>ありがとうございます。最後に私から6点ほどすみません、いいでしょうか。</p> <p>1つ目は、これを決める時に保護者にアンケートを採ったと思いますが、そのアンケートでは今のままの学校の状態がいいというのが5割以上あったはずなんですけども、その時には何の討議もされずに無視されてしまった形でした。だからやっぱりその時はもう平成2何年ですから、親たちはちょっともう古くなっちゃったというか、今の親たちじゃないんですけれども、もう1回親に向けてアンケートを採るといふうなことをしていただきたいなっていふうに思ひます。それが無理なら、前回採った親のアンケートをお願いします。</p> <p>で、2つ目に教職員のアンケート。あの良い悪いではなくて、本当にさっき仰ったように仕事量はどうですかとか、子供との関係とか。そこら辺で教職員が今の仕事に対してどう考えているか、小中一貫校についてどう考えているかみたいなのところのアンケート欲しいなっていふうなのが2つ目です。</p> <p>あと3つ目、広聴会の時に保護者が中学生のアンケートも欲しいみたいな話もありました。ちょっとそれはまた無視されてしまったんですけども、子供たちも小学6年生とか中学生辺りになると、アンケートではないにしても意見表明ができると思ひます。やっぱり意見表明権を受け止めるという意味では、子供たちにもアンケートが必要かなみたいなふうなことが思ひました。</p> <p>4つ目は子供の通学時間を調査していただきたいなということ。資料5の2枚目ちょっと開いていただきたいんですけども。小学校、小中学校位置図です。で、川角中学校川角小学校光山小はわりと近づいてるんですがスクールバスの問題ではほとんど問題になってないんですけども。毛呂小毛呂中学校を起点として半径1キロの円を描いたり2キロを描いたりして、通学距離が3キロといふうなことで出ました。で、その3キロは小学5年生なんですけども、小学5年生が3キロといふうに文科省は言っているんですけども。小学1年生にした場合、3キロになると目白台</p>
------------	--

を遥かに越えて、学校給食センターとか、川角リサイクルプラザとかが3キロになるわけです。でそこからやっぱり歩けるのかという問題。そして逆に、いま毛呂山小学校で桂木観音の下から来てる子がいるんですけども、そこがやっぱり3キロくらいになります。で、私がいた時はスクールバスが出てますって言われたから「あ、そうなんだ」と思ったら帰りしか出ないんですね。朝は6時50分に家を出て、学校まで来るっていう生活が1年中続いているんです、続いていました。もう過去の話なんですけども。小学1年生で本当に泣きながらね、来てたっていう話も聞きました。だからそういうところで、実際子供たちがもし毛呂山中学校と川角中学校に来るとしたら、いったい何キロ歩いているんだろうかっていうそこら辺の調査を、地区の大まかなところでいいんですけどもお願いします。もう鞆が重いっていう話も出てますし、コロナ禍っていうこともあるし、この暑さっていうこともあるし、本当に子供たちが耐えられるのかなっていうことをちょっと考えるとそこら辺の通学時間の調査をお願いしたいと思います。で、それが4つ目。

5つ目です。夏休みでなくていいんですが、小中一貫校になっている、城山学園の見学を1つ入れていただくとありがたいな。どういうふうに教室配置がなっているのかとか、階段はどうなのか。やっぱり全然私たちわからないんですよ。で、詳しい説明がまだないので、そこら辺でぜひそのの現物を見て。で、実際はあそこは200人なんですけど、それが900人になった場合どうだろうみたいな、ちょっと想像力を働かせていただいて、考えていただくという意味ではやっぱり小中一貫校の見学はほしいなっていうのが思いました。

で、最後6個目です。小規模校の見学というか、もほしいなと思えました。平行級がなくなっちゃうからいけないというふうな、そういうふうな形で、だから小中一貫校だっているふうにどんどんどんどん推してきたんですけども、実際にこの埼玉県の西部地区ここら辺で、平行級のある学校っていうのはいったいいくつあるんでしょう、ご存じですか。町だけなんですけども学校は39校あります。その中で、平行級がある学校が10校しかないんです。12クラス以上あるってことです。小学校6年生ですから12クラス以上ある学校は10校しかない。ということはあと39校の中の29校はもう本当に、なんというのかな、2クラスだったり1クラスだったりっていう形です。それで、6クラスしかない単級、それが21校です。で、小学校の単級は悪い単級は悪いって言ってたらこの21校は全部悪い学校になります。だけど、そうじゃないですよっていうふうなところもある、私の気持ちとしてはある。現場を回ってきてね。だから、

	<p>だからこそ小さい学校はいったいどうなっているのかというのをこの人たちにもわかってほしいな。きっと自分で見に行けば、あ、こんなふうに頑張ってるんだとか、あ、ここがまずいなみたいところが気がつくと思います。だからそういう意味では、単級はいじめでまずいまずいということで押すのではなくて、本当に現状を見て考えてもらうための機会として私はやってほしいなというふうに考えています。以上6個です、すいません。</p> <p>他にありましたらお願いします。</p> <p>(委員挙手)</p> <p>はいどうぞ。</p>
Q 委員	<p>Qです、お世話になっております。先ほど、桂木観音の方から朝6時50分に出発して登校してる児童が泣きながらっていう、そのお話は現在…</p> <p>…。</p>
委員長	<p>いや、それはごめんなさい。私のいた頃です。</p>
Q 委員	<p>いま現在は……。</p>
委員長	<p>その子供たちがいなくなればいけないと思います。ただ、今も毛呂小は鎌北湖のほうは朝も夜もスクールバスが走っていると思いますけれども。</p>
Q 委員	<p>朝も。</p>
委員長	<p>朝も。阿諏訪とか滝ノ入のほうはきっと下りだからという理由で、帰りしか送らなかったっていうふうなことが私のいた時にはこういうふうな理由でそうなっていました。ちょっとすいません、いま児童数が減ったのでどうなってるかわかりませんが、教育委員会のほうは掴んでいると思います。すみません。</p>
Q 委員	<p>やっぱり母親として6時50分に出すって、やっぱり1年生を出すっていうのは本当大変ですよ、母親としては。</p> <p>(うち7時ですよとの声)</p>

	<p>現在。</p> <p>(朝。うん、うんとの声)</p>
委員長	<p>大変なんです、本当に。親も子供も。通学毎日のことじゃないですか。私はそれがすごい気になってます。</p>
Q 委員	<p>はい。私はですね、現在私毛呂山で育って、泉野は小学2年から行ってるんですね。1年の時だけ川小に行ってるんです。箕和田っていうところに住んでるんですけど、7時10分だったんですね、当時出発が。で、記憶としてはやっぱり朝は班長さんがやっぱり班員と一緒に行くのでどうにか歩いて行けちゃうんですけど、帰りがやっぱり学年だけで帰ってくるので、なんかきつかった記憶がどうしてもまだ残ってて。これだけ歳とっても通学がやっぱりちょっと気になってるなっていうところではあります。すみません、桂木のその件は何えたので。</p>
委員長	<p>すみません、私の話は20年前の話として受け取ってください、すみません。</p>
Q 委員	<p>はい。すみません、ありがとうございました。</p>
委員長	<p>詳しい、もっと意見を言ったり答えたりまたいろんな話は次の会からということにさせていただくことにして、一応質問等あるいは要望等があったら事務局のほうに伝えていただければと思います。</p> <p>時間も3時25分になりました。事務局のほうから何かありましたらお願いします。</p>
事務局	<p>議事はこれで終わりにしちゃっていいですか。</p>
委員長	<p>じゃあ議事はこれで終わりにしてよろしいですか。はい、わかりました。では議事はこれで終わりにします。</p>
事務局	<p>進行のほうありがとうございました。</p>

副委員長	<p>それでは、次回のあり方検討委員会は9月30日金曜日を予定しております。また改めてご通知を差し上げますので、よろしく申し上げます。お時間のほうはですね、今日と同じ午後の1時30分を予定しております。</p> <p>それでは、閉会のご挨拶を副委員長さんをお願いいたします。</p> <p>ではご指名にあずかりましたので僭越ながら。これにて閉会とさせていただきます。今日は皆様お忙しい中どうもありがとうございました。</p>
------	--